

# 高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準



必要な機能



スペースに応じた機能



表示

## 2. 1 3 F. 1 乳幼児等用設備

## (1) 設置位置、空間の確保等

- ・乳幼児連れ利用者が利用する施設では、母乳及び哺乳びんによる授乳に対応した、授乳のためのスペースを設ける。
- ・授乳のためのスペースは、**区切られた空間**とする。
- ・授乳のためのスペースの構成・設備配置等は、男性の哺乳びんによる授乳時にも利用できるよう、配慮されたものとする。

## (2) 戸の形式

- ・授乳のためのスペースの出入口は、ベビーカーの利用に配慮した幅員と戸の形式とする。

## (3) 授乳及びおむつ替えのための設備

- ・授乳のためのスペースには、授乳のためのいすを設ける。
- ・授乳のためのスペースには、**乳幼児用おむつ交換台等**を適切に設ける。

## (4) 案内表示

- ・授乳のためのスペースの出入口付近には、授乳のためのスペースである旨を表示する。
- ・男性の哺乳びんによる授乳やおむつ替えにも配慮し、授乳やおむつ替えのためのスペースの出入口付近には、内部の**設備配置等の状況**、**男女の入室可否**を表示する。

**留意点：整備の配慮事項**

- ・母乳による授乳のためのスペースは、カーテン、ついでに、内側から**鍵のかかる引き戸**（表示錠付き）等によりプライバシーを確保することが必要である。
- ・授乳のためのいすは、授乳の体勢が安定するよう、ひじ掛け、背もたれがついたものであることが望ましい。
- ・授乳のためのスペースには、荷物置き場や調乳のための給湯設備、哺乳びんの洗浄のための設備を設けることが望ましい。
- ・おむつ交換台や乳幼児用いす等の配置は、ベビーカー等の通行を妨げないように配慮する。
- ・乳幼児用おむつ交換台の近くには、調乳のための流し台設備等とは別に、手洗い器を設けることが望ましい。

**留意点：乳幼児用おむつ交換台**

- ・乳幼児用おむつ交換台から目や手を離さずに利用できる位置に、荷物置き場やおむつ用のごみ箱等を設けることが望ましい。
- ・乳幼児用おむつ交換台は落下防止措置が講じられたものとする。
- ・乳幼児用おむつ交換台は乳幼児を寝かせた状態でのおむつ交換に適しており、転落等の可能性のある幼児の立位姿勢でのおむつ交換、排泄前後の着脱衣には、着替え台が適している。
- ・乳幼児用おむつ交換台を利用する乳幼児に対し、照明の光が直接目に入らないように、照明器具の配置に配慮する必要がある。

## 2. 1 3 F 2 設計例

## &lt;大規模な授乳室の例 1&gt;

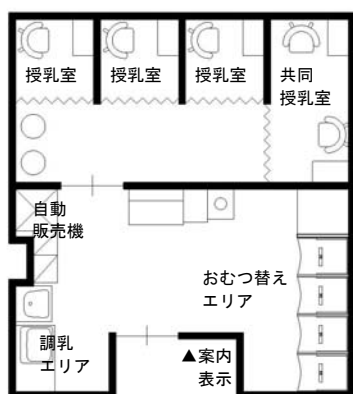


- ・ 出入口と案内表示（授乳室には男性が入れないことについて注意喚起）



- ・ 個室の授乳室

## &lt;大規模な授乳室の例 2&gt;



- ・ 出入口と案内表示



- ・ 個室の授乳室



- ・ 乳幼児用おむつ交換台、常に清潔かつ使いやすい状態に保たれている

## &lt;小規模な授乳室の例&gt;

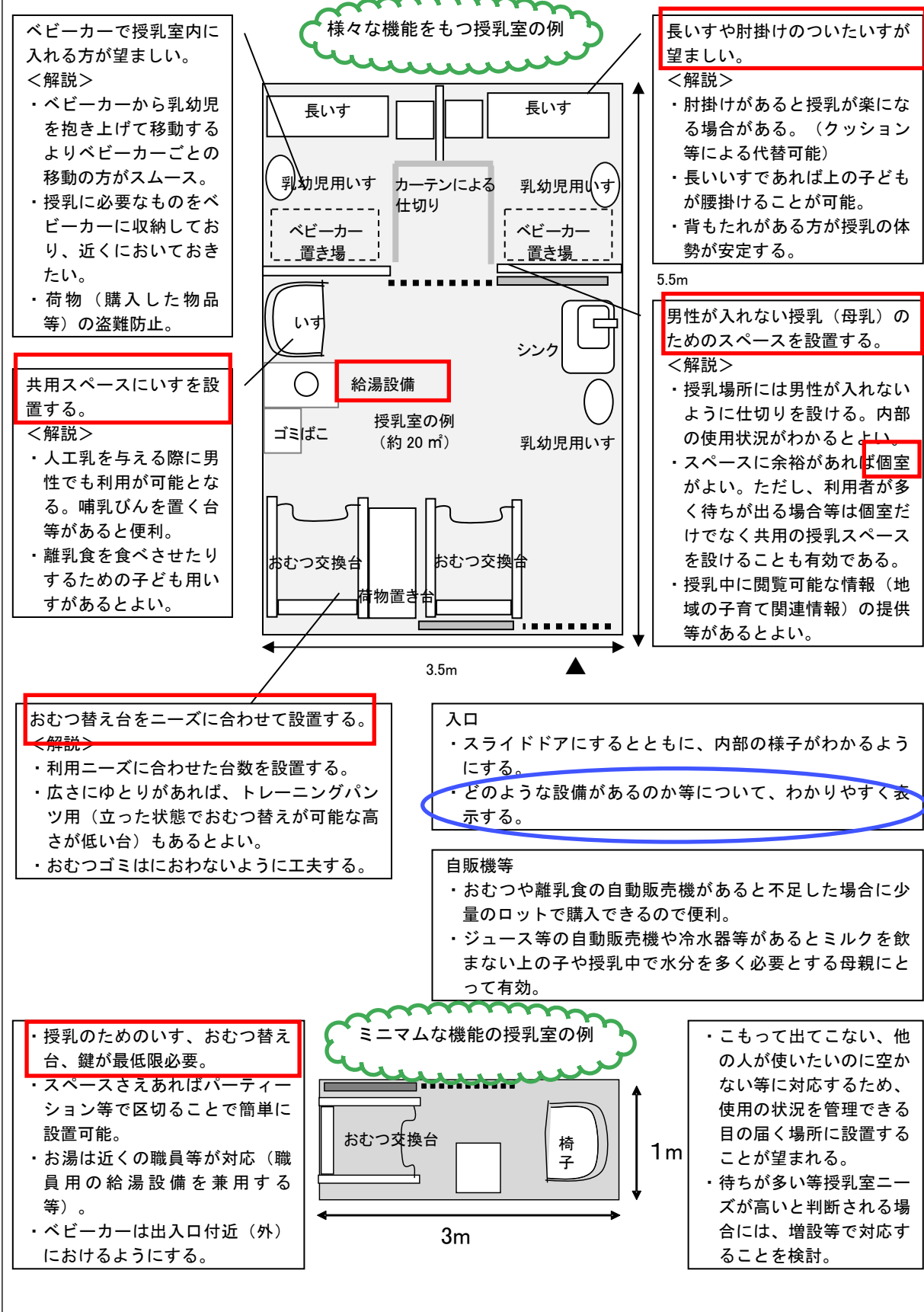


- ・ 乳幼児用おむつ交換台や授乳室がコンパクトに集約されている

## ●授乳及びおむつ替えのための設備

参考図：安心して子育てができる環境整備のあり方に関する調査研究報告書  
(H22.3国土交通省総合政策局)より引用(一部加筆修正)

## 造作・機器 13F





## 屋内・屋外の休憩スペースと子どもの遊び場が提供されるコンビニエンスストア

### ① 背景

ローソンの創業30周年記念として、2006（平成18）年12月から約半年間、時限的に日本橋で子育て応援店舗「ハッピーローソン日本橋店」がオープンし、新しい取り組みに多くの人や沢山の声が集まった。その経験を踏まえ、横浜市から山下公園内での売店の公募を機会に、「ハッピーローソン山下公園店」を提案し実現された。

### ② 概要

買い物を行わない人も気軽に立ち寄れる屋内・屋外に広い休憩スペースが設けられている。室内には木の質感を大切にした立体的な子どもの遊び場がつくられている。

これらのスペースは子育て応援のイベント等に利用され、地元の公共団体主催の食育イベント等が行われることもある。また、市のインフォメーションコーナーも設けられており、様々なパンフレット等が置かれ、情報発信の場ともなっている。

子育て応援店舗として、通常のコンビニエンスストアには置いていない紙おむつの少量パック、離乳食、小さなおもちゃ等、赤ちゃんから就学前の子連れに求められる商品が置かれている。粉ミルク用のお湯、授乳用スクーフの貸し出し等も行われている。



子どもの遊び場と屋内・屋外の休憩スペース：木の立体的な遊具、休憩スペースが設置され、多くの子ども連れでにぎわっている。



子育て応援グッズ：離乳食の販売や粉ミルク用のお湯の提供が行われベビー用品のアンテナショップとしても利用されている。



ベビーカー、車イスを考慮した通路幅：ベビーカー、車イス、買物用カート等の利用時でも人とすれ違える1,200mm以上の通路幅

店舗イメージ



出典：ハッピーローソン山下公園店HP



買い物用のカート置き場：子ども連れの利用を配慮し買い物用のカートが置かれている。

## 2. 1 3 G. 1 案内表示

## ◆ 基準 ◆

## ＜建築物移動等円滑化基準チェックリスト＞

施設等	チェック項目
標識 (第19条)	①エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設があることの表示が見やすい位置に設けているか
	②標識は、内容が容易に識別できるものか(日本工業規格Z8210に適合しているか)
案内設備 (第20条)	①エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設の配置を表示した案内板等があるか (配置を容易に視認できる場合は除く)
	②エレベーターその他の昇降機、便所の配置を点字その他の方法(文字等の浮き彫り又は音による案内)により視覚障害者に示す設備を設けているか
	③案内所を設けているか(①、②の代替措置)

## ＜建築物移動等円滑化誘導基準チェックリスト＞

施設等	チェック項目
＜一般＞ 標識 (第14条)	①エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設があることの表示が見やすい位置に設けているか
	②標識は、内容が容易に識別できるものか(日本工業規格Z8210に適合しているか)
案内設備 (第15条)	①エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設の配置を表示した案内板等があるか (配置を容易に視認できる場合は除く)
	②エレベーターその他の昇降機、便所の配置を点字その他の方法(文字等の浮き彫り又は音による案内)により視覚障害者に示す設備を設けているか
	③案内所を設けているか(①、②の代替措置)

## (1) 案内板、表示板等

## ① 設置位置等

- エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設の付近には、それぞれ、当該エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設があることを表示する表示板(標識)を設ける。
- 表示板は、高齢者、障害者等の見やすい位置に設ける。
- 建築物又はその敷地には、建築物又はその敷地内のエレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設の配置を表示した案内板その他の設備を設ける。(当該エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設の配置を容易に視認できる場合、案内所を設ける場合を除く。)
- 案内所(受付カウンター)やエレベーターホール等の動線の要所には、案内板を設ける。
- 廊下等の曲がり角ごとの、わかりやすい位置に、誘導用の表示板を設けることが望ましい。
- 案内板、表示板等の配置と、視覚障害者誘導用ブロック、音・音声や光による誘導が効果的に組み合わせるよう配慮する。

## 留意点：配置上配慮すべき事項

- 大きな建築物や構造・空間構成が複雑な建築物等においては、案内表示や誘導、音声案内、文字情報等の配置は、特に注意する必要がある。また、人によるサポートがあると誰もが安心して使えるので、建築的な対応に加えて人やインターホン等を配置し、ソフト面で対応することも考えられる。

## ② 設置方法等

- ・逆光や反射グレアが生じないよう案内板、表示板等の仕上げや、設置位置、照明に配慮する。
- ・掲出高さは、視点からの見上げ角度が小さく、かつ目線の低い車いす使用者にも見やすい高さ、弱視者が接近して読むことができる位置・見やすい高さとするのが望ましい。
- ・案内板、表示板等にケースがある場合、光の反射により見にくくならないよう設置位置、照明に配慮する。
- ・案内板、表示板等は、車いす使用者や視覚障害者の通行の妨げとならない形状、設置位置とする。

## ③ 案内表示の内容

- ・案内板には、エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設の配置を表示する。
- ・案内板には、上記のほか、空間全体や各空間の用途、建築物や施設の利用案内、車いす使用者用客席、乳幼児等用設備等の位置を表示する。
- ・表示板には、エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設等の各空間の用途、順路等を表示する。

## ④ 文字、図

- ・案内板、表示板等には、大きめの文字を用いる、漢字以外にひらがなを併記する、図記号等を併記する、図を用いる等、高齢者、障害者等にわかりやすいデザインとする。
- ・案内板、表示板等に図記号・図を用いる場合には、文字表記を併記する。
- ・案内板、表示板等は、点字を併記する等、視覚障害者の利用に配慮したものとすることが望ましい。
- ・点字表示については、JIS T 0921を参照。
- ・表示板、案内板等は、文字が読めない、あるいは、文字より絵のほうが理解しやすいといった障害を持つ人や、子どもに対する情報提供にも配慮したものとする。
- ・同一建築物内においては、案内板、表示板等のデザインは、統一することが望ましい。

### 留意点：表示板と案内板

- ・表示板の設置に際しては、照明計画、コントラスト等について総合的な検討を行うとともに反射やちらつきがないような配慮をすることが望ましい。
- ・表示板の設置については、国土交通省総合政策局「公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン バリアフリー整備ガイドライン 旅客施設編 平成25年6月」([http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sousei\\_barrierfree\\_mn\\_000001.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sousei_barrierfree_mn_000001.html))が参考となる。
- ・動線を示す主要な案内板は、必要な情報が連続的に得られるように配置することが望ましい。
- ・案内板等は各フロアに設けることが望ましい。

### 留意点：文字、図

- ・文字が多いものや、デザインが複雑なものは、わかりにくいため避け、できる限りシンプルなものとすることが望ましい。
- ・タッチパネル式の案内表示は、視覚障害者には使いにくい。
- ・文字の書体は認知のしやすいものとするのが望ましい。
- ・施設の用途により主要な案内板、表示板等は外国語を併記することが望ましい。

### 留意点：文字と図記号等の併用

- ・知的障害、発達障害のある人は、図記号や図の方がより理解しやすい場合もあるが、文字の方がわかりやすい場合もあるため、図記号や図には、必ず文字表記を併用する。

### 留意点：知的障害、発達障害、精神障害のある人への案内表示の有効性

- ・表示されている内容を読みとることが難しいこともある知的障害、発達障害、精神障害のある人にとって、統一されたデザインによる表示は有効である。

(出典：知的障害、発達障害、精神障害のある人のための施設整備のポイント集 (国土交通省HP)  
(<http://www.mlit.go.jp/common/000045596.pdf>))

### ⑤ 図記号（サイン）

- ・表示板は、表示すべき内容が容易に識別できるもの（当該内容がJIS Z 8210に定められているときは、これに適合するもの）とする。
- ・案内板、表示板に用いる図記号は、標準化されたものを使用することが望ましい。標準化された図記号の例としては、以下のようなものがある。

#### ア. 国際シンボルマーク

- ・身体障害者が使用可能な建物・施設であることを示す。  
※1969（昭和44）年に国際リハビリテーション協会が定めた。

#### イ. 日本工業規格「案内用図記号」（JIS Z 8210:2002）

- ・JISの案内用図記号には安全・禁止・注意及び指示図記号に用いる基本形状、色、及び使い方が定められている。また、公共・一般施設を案内する図記号についても定められている。
- ・この中に定められていないものについては、ウ. 標準案内用図記号ガイドラインによることが望ましい。

#### ウ. 標準案内用図記号ガイドライン

- ・標準化された各種案内用図記号が定められている。  
※国土交通省の関係公益法人である交通エコロジー・モビリティ財団が日本財団の助成を得て設置した「一般案内用図記号検討委員会」において、2001年3月に策定された。
- ・125種類の図記号とともに、使用上の注意も掲載されており、交通エコロジー・モビリティ財団のホームページ（<http://www.ecomo.or.jp/>）において閲覧できる。

#### エ. オストメイトマーク

- ・オストメイトに配慮した設備が設けられているトイレに表示する。
- ・「公共交通機関の旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン」（2007年9月 交通エコロジー・モビリティ財団）及びホームページ（<http://www.ecomo.or.jp/>）参照。

#### オ. コミュニケーション支援用絵記号

- ・文字や話し言葉によるコミュニケーションが困難な障害を持つ人の理解を助けるための手段として、コミュニケーション支援用絵記号が開発されている。
- ・絵記号を描く際の基本形状（面と線での表現、物を正面、真横、斜め方向からとらえた表現等）、作図原則（既存の絵記号との整合性、主題の明確化等）を規定し、描きやすく、伝えたい内容が理解されやすい絵記号を描くためのルールを示している。（JIS T 0103）規格は、日本工業標準調査会（JISC）のホームページ（<http://www.jisc.go.jp/>）で閲覧することができる。また、規格には参考として約300の絵記号の例を収載している。（財）共用品推進機構のホームページ（<http://www.kyoyohin.org/>）参照。



ピクトグラムによる表示の例  
（絵、漢字、ひらがなを併記している。）





## ⑥ 色使い

- ・案内表示は、文字・図記号、図、背景の色の明度、色相又は彩度の差を確保したものとすることが望ましい。
- ・弱視者、色弱者の視覚特性に配慮したものとすることが望ましい。

### ア. 弱視者の特性と案内表示等

- ・弱視は、視野の欠損、視野の低下等、さまざまな障害や程度があり、個人差が大きい。また弱視者は、点字を読めない場合もあるため、視覚障害者対応として、点字を設置すればよいというわけではない。
- ・弱視者の誘導に配慮し、わかりやすい案内表示、音声案内、人的な誘導等を組み合わせることが望ましい。
- ・案内表示は、弱視者のほか、白内障の高齢者の黄変化視界でもわかりやすいものとすることが望ましい。

### イ. 色弱者の特性と案内表示等

- ・色弱者は、色と色の違いを見分けにくいという特性を持っているため、案内表示の色づかいは、一般的には見分けにくい色の組み合わせを避けることが推奨されている。
- ・色弱者の見え方は、2-148頁の「図 色弱者の色の見え方」の「P型(1型)」、「D型(2型)」の例に示されるように、一般色覚者の見え方とは異なる。例えば、彩度の低い水色とピンクは区別がつきにくい、緑系と赤系の区別がつきにくい等の特徴がある。
- ・案内表示の色づかいについては、「図 色弱者の色の見え方」の例を参考に背景色、対比させる場合の色の選択することが望ましい。  
(色の選び方については、「カラーユニバーサルデザイン推奨配色セット」(出典：社団法人日本塗料工業会・特定非営利活動法人カラーユニバーサルデザイン機構)等も参考となる。)
- ・色で識別する案内表示では、凡例との色対応による識別が困難で表示内容が理解できない場合等があるため、凡例に色名を文字表記したり、模様や線種の違いを併用したりすることが望ましい。

#### 留意点：色使い

- ・色についてはJIS Z 8210:2002や「標準案内用図記号ガイドライン」(⑤ 図記号参照)等が参考となる。  
(<http://www.ecomo.or.jp/>)
- ・文字と背景の色の組み合わせは、白内障の方や色弱者、弱視者の色の見え方に配慮して明度を大きく対比させたものとする。
- ・褪色しやすい色を用いない。

#### 留意点：高齢者に多い白内障への対応

- ・白内障の人は、黒い背景と青の組み合わせが見難いため、背景が黒の場合は水色のほうがわかりやすい。
- ・白い背景では、白内障の人は黄色と白の区別がつきにくい。やむを得ずこれらの色を使用する場合には黒で縁取りをつける。

#### 留意点：色弱について

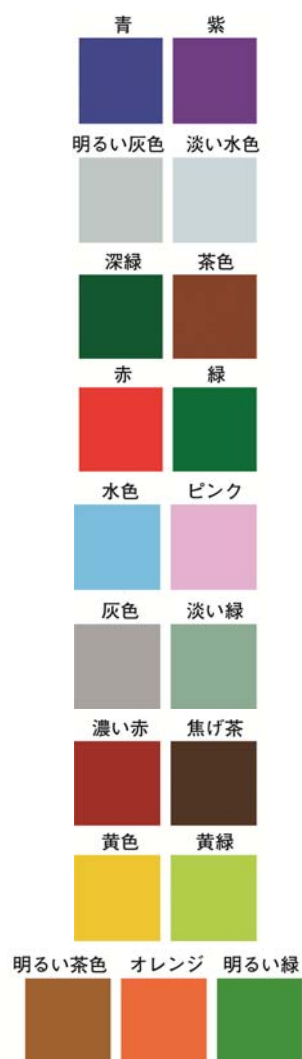
- ・色弱者(色覚障害者、色覚異常者ともいう。)の割合は、日本人の場合、男性では20人に1人、女性では500人に1人の割合で存在する。
- ・これらの人の視力は普通の人と変わらないが、一部の色の組み合わせについて、一般の人と見え方が異なる。また、老化に伴う白内障や目の疾患によって視力の低下とともに色の見え方が変わることもある。  
参考資料：「カラーバリアフリー サインマニュアル」神奈川県(平成21年3月)

#### 留意点：サイン作成で色・形等について配慮すべきこと

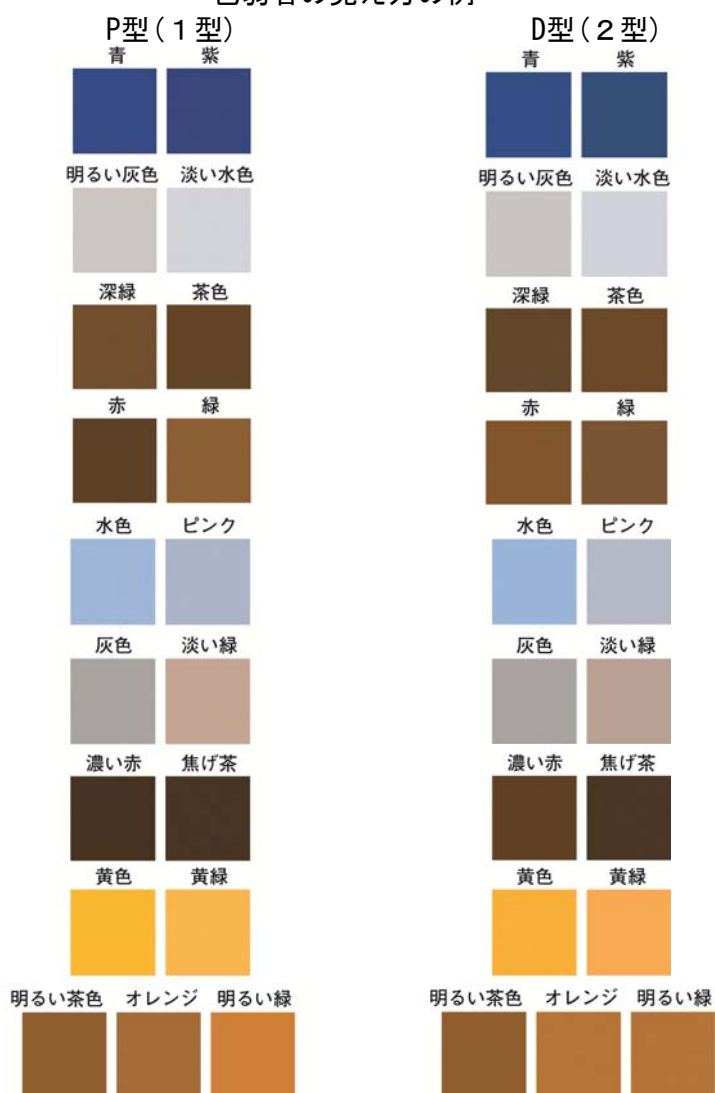
- ・見分けにくい色の組み合わせを避け、背景の色と文字やサインの色を選ぶ
- ・色分けのみでなく文字を併記して案内する
- ・形だけでも違いがわかるようにする(ハッチング・斜体・下線・枠囲み等の併用)
- ・塗り分けの凡例を別にせず、直接書き込む
- ・色と色の境界には白又は黒の細線で縁取りをする
- ・色の面積を大きくとる(線を色分けするときは太くする)
- ・色名を書く(色名を使った案内が予想される場合)

参考資料：「カラーバリアフリー サインマニュアル」神奈川県(平成21年3月)

図 色弱者の色の見え方<sup>1</sup>  
一般色覚者の見え方



色弱者の見え方の例



色弱者の見え方は例示であって、実際にどのように見えるかは、個人差や照明の環境により異なる。

**留意点：色の選び方と施設設備等で配慮すべきこと**

<色の選び方>

【赤】

- ・赤は濃い赤を使わず、朱色やオレンジに近い赤を使う

【黄緑、緑】

- ・黄色と黄緑は赤緑色弱者にとっては同じ色に見えるので、なるべく黄色を使い、黄緑色は使用しない
- ・濃い緑は赤や茶色と間違えるので、青みの強い緑を使う

【青】

- ・青に近い紫は青と区別できないので赤紫を使う

【黄色と白】

- ・細い線や小さい字には、黄色や水色を使わない
- ・明るい黄色は白内障では白と混同するので使わない

<確認方法>

- ・白黒でコピーしても内容を識別できるか、確認する
- ・色弱者の見え方のチェックツール（シミュレーションソフト）もある。

ただし、チェックツールは、色弱者にとっての色の見え方をチェックするのではなく、見分けにくい配色があるかを確認するものである。実際の見え方には多様性があることを留意した上で、チェックした結果を活用することが望ましい。

<施設整備で配慮すべきこと>

- ・色弱者は、色は見分けられても色の名前がわからないことがある
- ・受付等を物件にあわせて色分けする場合は、番号も併記する
- ・色分けしたパネルには色名を併記する
- ・案内表示は、大きくわかりやすい平易な文字、図等を使い、これらの色には地色と対比効果があり明暗のコントラストのはっきりした色を使用する

参考資料：「カラーバリアフリー 色使いのガイドライン」神奈川県（平成20年10月）より抜粋し一部加筆

<sup>1</sup>出典：「カラーバリアフリー サインマニュアル」神奈川県（平成21年3月）

## (2) 点字・音声等による案内板

- ・建築物又はその敷地には、建築物又はその敷地内のエレベーターその他の昇降機又は便所の配置を点字、音による案内、そのほかこれらに類する方法により視覚障害者に示すための設備を設ける。（案内所を設ける場合を除く。）
- ・点字の表示方法等についてはJIS T 0921を参照。
- ・触知案内図の情報内容及び形状、表示方法等についてはJIS T 0922を参照。
- ・点字等による案内板の機能に、音声案内装置を付加したものは有効である。
- ・音声案内装置については、2. 1 3 I. 1 情報伝達設備（1）を参照。

### 留意点：点字・音声等による案内板

- ・点字等による案内板だけでは情報を読み取れる視覚障害者はかなり少ないといわれている。設置にあたっては、視覚障害者が読みやすいデザインを心がけるとともに、文字等を浮き彫りしたり、音声による案内を行う等の工夫をすることで、より情報が伝わりやすく、誰にでもわかりやすい案内板とする必要がある。
- ・有効に使用するためには、清掃管理を適切に行う必要がある。
- ・設置する際は、施設内、あるいは近隣施設内の設置位置等を統一し、視覚障害者が点字・音声等による案内板を見つけられるように配慮する必要がある。
- ・点字等による案内板を設けない場合、受付カウンターまで誘導し、館内の点字等による案内等を貸出しすることも考えられる。

## 2. 1 3 G. 2 設計例

### <視覚障害者等への配慮>



- ・点字等による案内板（図面は、晴眼者にも使えるように、彩色され、墨字の表記もされている。風除室内に設置され、視覚障害者誘導用ブロックにより誘導している。）



- ・点字等による案内板（高齢者や子どもにも利用しやすいように大きめの墨字を併記し、弱視者に配慮した色使いとなっている。車いす使用者にも見やすい高さである。）

### <高齢者、障害者等への配慮>



- ・主な出入口のそばに設置されたサテライトカウンター（人がいない時にはインターホンにより対応する。）

### <聴覚障害者等への配慮>

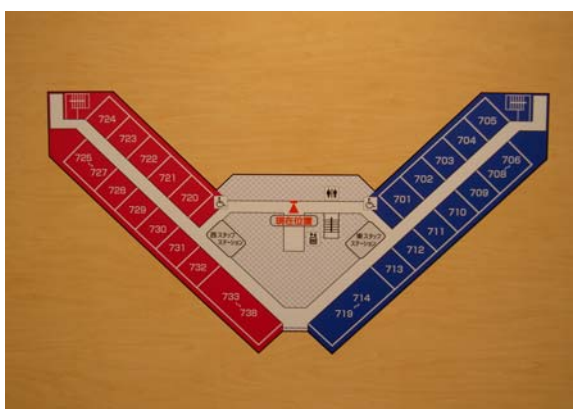


- ・難聴者への筆談対応を示すマークが設置されたカウンター（受付、窓口等に設置して、聴覚障害者への対応を行っていることを示すことができる。）

## ＜色弱者等への配慮＞



- ・赤色に工夫をし、図を縁取りして視認性を高めている案内表示



- ・色を使ってわかりやすく表現している案内図と案内表示



- ・提供する情報量を絞り、色分けだけでなく表示に色名をつけて情報を提供している案内表示



- ・廊下に設置され、大きくわかりやすく、接近して見ることも可能な案内表示



- ・背景色を白、女性用便所のマークの色彩を朱赤にして色弱者の視認性を高めている案内表示

## 利用者参加型プロジェクトの事例

- ・これらの写真は、利用者参加型のプロジェクトとして建設された草加市民病院（埼玉県草加市）及び、お茶の水・井上眼科クリニック（東京都千代田区）の写真である。視覚障害者の参加のもとに色彩、及びサイン計画が実施された。



## 標準案内用図記号

- ・標準案内用図記号は125種類が定められているが、ここではそのうちの一部を紹介する（推奨度A及び推奨度Bの中から抜粋した。）
- ・詳細及びこの他の図記号については、一般用図記号検討委員会の「標準案内用図記号ガイドライン」を参照のこと。
- ・同ガイドラインには、使用上の注意も掲載されているので、必ず参照すること。
- ・なお、※印のある図記号は、既存のもの等が採用されたものである。

## ＜推奨度A＞



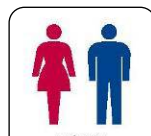
## ＜推奨度B＞

オストメイトに配慮した  
設備が設けられている便  
所に表示するマーク

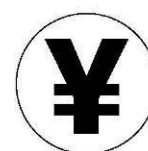
- ・オストメイトに配慮した設備を設けた便所・便房には、右に示すマークを表示する。

オストメイトに配  
慮した設備を設け  
たトイレ

## 男女共用の便所に表示するマーク



男女共用

会計  
Cashier  
【注2】(通貨記号差し替え可)

## サイン計画に利用者参加型で取り組んだ事例

## 東京都大田区における庁舎のユニバーサルデザイン化の取り組み

## ① 背景

- ・大田区本庁舎は開庁から10年以上が経過し、度重なる組織改正によって庁舎内のサインは煩雑になり、抜本的改善が求められていた。
- ・2009（平成21）年度の組織改正において組織名称が大幅に改正されたことや、本庁舎のオフィスレイアウトが刷新されたことを契機に、本庁舎のサイン（案内板、表示板等）を全面改修することとなった。

## ② 取り組みの概要

- ・サイン計画の全面改修（以下、プロジェクトという。）にあたっては、大田区施設管理課を中心に大田区の関係部署が定期的に参加し、そこにデザイナーが加わる体制とした。また、市民団体と随時連携し、意見交換や検証実験を行った。
- ・プロジェクトの工程は下表の通り。庁舎の全面改修を実施した第1次整備と、更なる改善を実施した第2次整備からなる。
- ・第1次整備完了後の2009（平成21）年9月と第2次整備完了後の2010（平成22）年4月に障害当事者による検証実験を実施し、サイン計画の評価を行った。

## ◆検証実験 i）（2009（平成21）年9月）の概要

- ・被験者は肢体不自由3名、弱視者2名、全盲1名、聴覚障害者2名、健常者1名
- ・いくつか目的地を設定し、そこに単独で向かう被験者の行動を観察し、迷いや間違いを起こさないかを確認した。
- ・結果、弱視者・全盲の方が目的地にたどり着けない場合があり、特に弱視者がサイン自体を発見できないケースがあることが判明した。

## ◆検証実験 ii）（2010（平成22）年4月）の概要

- ・被験者は弱視者4名
- ・検証実験 i）を受けて弱視者との意見交換等を実施し、弱視者にもわかりやすくするため、屋内用点字ブロックの設置や光サインの改善、受付で渡す案内マップの整備を行った上で、再度検証した。検証方法は検証実験 i）と同様。
- ・結果、目的地にたどり着くことが容易になったことを確認できた。
- ・この後も全盲者を対象に検証を行い、サイン計画改善による効果や課題を確認する等、庁舎ユニバーサルデザイン化に向けた取り組みが進められている。

表 プロジェクトの工程

第1次整備 (庁舎の 全面改修)	2009年3月	現状調査と課題抽出
	4月	サイン基本計画
	5月	区民の会との意見交換会
	6月	サイン実施設計
	7月	本庁舎サイン竣工
	8月	4地域庁舎サイン竣工
	9月	検証実験 i)
第2次整備 (竣工後に 明らかにな った課題の 改善)	10月	改善策の検討
	11月	案内マップの整備
	12月	光サイン・誘導タイルの試案設置
	2010年1月	弱視者問題研究会との意見交換
	2月	区民の会との意見交換会
	3月	光サイン・誘導タイル施工
	4月	検証実験 ii)

サイン計画の改善の一例  
(窓口案内)

検証実験の様子



改善後のサイン